

【講義の進め方】

- ◎『信者めぐり』所収の逸話を読みながら、ビブリオセラピー方式で進めます
- ◎皆で同じ文章を読み、その感想を心にうかんだことをそのままに書いてもらいます。
- ◎それを参加者全員で共有します。Zoomのチャット機能を使って福岡宛てに送ってください。感想を名前を伏せて紹介します。匿名にする必要がない方は全員共有でながしていただけたら有難いです。
- ◎一方的な講義形式ではなく、相互共有しながら味わいを深める事を目的とします。皆さまのお力が頼りです!!
- ◎基本的に感想に注釈を入れるような事はしません。また途中で解説をしたり質問に答えることはなるべく避けます。質問のようなご感想も、その方の味わいとしていったん、そのまま受け止めさせてもらいます。
(解説をしたり、質問に答えすぎる事で感想を誘導する事を避けたいので)言葉の意味が日本語としてわからない場合は言ってください。また、わからない事は後でまとめてご質問下さい。次回までにお答えさせていただきます
- ◎最後15分から20分は質疑応答の時間を作ります。その時に質問があればどうぞ。

【狙い】

- ◎他力の念仏に魅せられた方々が実際におられたことを味わう
- ◎その方々の上にはたらきたもう阿弥陀如来を味わい、私の上にもそのはたらきが届いていることを味わう

◎三河 和兵衛同行続き いよいよご対面

いよいよお目にかかってみれば、70余歳のご老人(正月2日にご往生されたので、その日から言えば二日後に亡くられるのである)骨と皮とにやせ衰え、見るに見かねるお姿であった。

その姿を見るにつけ、自分も一度はこの姿にならねばならぬ現実を思い知らされ、後生はいったいどうなるのであろうかと思い、涙がむせんだ。

今日までおみ法を聞かせてもらいながら、信じられたようにも、たのまれたようにもなく、これという確信はつかず、只どうにかなりたくてたまらないが、どうにもなれず、とにかく一時も早く後生の一大事を解決したいという思い以外にはなかった。

そこで、このご老人のような信仰の厚い信者になれたら、未来はさぞ明るいものであろう、返事があれば仕合せ、無ければ仕方がない。一言聞いてみようと思った。

その時の私の心中は、明るいものと言われたら明るくなるまで聞きましょう。もし暗いと言われたら今の暗いままで良いのだと、暗い所で落ち着いておこうという心持の他なかった。

とにかく聞いてみようと思い「お同行さん、お同行さん」と呼びましたなら、ぱっちりと目を開かれて、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、とお念仏を申された。

「ちょっとお尋ね申し上げます。私は後生が苦になってあなたのお育てを蒙ろうとこの度わざわざ訪ねて参ったものでありますが、お見受けしたところ実にご大病のご様子さぞ、お苦しい所でしょう。いよいよその身におなりになられては再び御全快はできないでしょうが、今いよいよ(この世を)出ていく事を思ったとき、先は明るいものですか?暗いものですか?」
と尋ねた嫌な顔をせず、むしろよく聞いてくれたと意に叶ったご様子で九死に一生の大病人が口を開いた。

「どこの誰か知らぬが、まあ御免ください、いよいよこうなって後生が明るい暗いかとはよく聞いてくれた。病気の様子や気分の良し悪しは尋ねてくれる人はあるが、この私の後生の心配をして行く末一つを聞いてくれる人はいない。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」

と唯、如来聖人のご催促と聞いて、わが身の仕合せをよろこんでいらっしゃる。

そのお姿を見るにつけ、ご信者というのは何を聞いても我が身へのご催促とおよろこびなさるが、どうかこのお方のようにになりたい、ならねばならぬ。と思った。

しかし、信者を喜ばせるために聞いたのではない。明るい暗いを聞きたいためだったのにと、心中に愚痴をこぼしておる所へ和兵衛様はにっこり笑って

「後生は明るいと言えば明るくもない、暗いかと言えば暗くもない。ただ病気が苦しい一つしかないわいの。もしも明るい暗いを、私の方で見ないといけなような事なら、台無しになるお方があるでこのう、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」とさも嬉しそうに念仏を称えていらっしゃる。

この一言には千万両の価値がある。もし機の上において助かるために明るい暗いを見定めないといけないのなら、大騒動。大丈夫らしいものを見定めても、臨終には病気の苦しさを克服することは叶わないでしょう。

もし克服できるような勇気があっても、迷いの身をもって作った事なら、悟りの境界へ通用する道理もない。故に明るいと言えば明るい所、暗いと言えば暗い所に落ち着かせてもらうという心を考えてみてください。

明るい暗いを言わずして、ただ病気が苦しい一つより他はありませんね。私の方で後生の宿を取る心配まではいらんことですね。

「もし宿をとったら無になる方があるでのー」とは誠に嬉しい御本願の仕掛け、聞けば聞くほど疑う心があればこそじゃ。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。その時政四郎さんが

「このご大病の中で、念仏を称えなされるのは、ご恩を思って称えなされるのですか?」と尋ねたその時和兵衛さんは声を張り上げ「政四郎さん、政四郎さん、往生は仏様のお仕事と聞かせてもらう上からは、機の上の事は聞かんでもよいわの!」とおっしゃった。

このお答えがなんとも嬉しかった。我の思いようで定まる往生でなくて、まるまる仏仕事だけで永劫の仕合せを蒙らせていただくというお約束を明らかにお知らせくださいました。

(おまけ)

求道に用事無し

浄土真宗は他力のお救い=自力心はひとかけらも差し挟まらない

(自力無功)

自力とは? 「自力といふは、わが身をたのみ、わがころをたのむ、わが力をはげみ、わがさまさまの善根をたのむ人なり」(『一念多念文意』 p688)

⇒私のやったことが、往生成仏の足しになると思う心

=南無阿弥陀仏では不足。心もとないと思う心。

自力心を「疑蓋」と表現される

他力の信は疑いの蓋がない。疑蓋無雜⇒疑いのふた(自力の信心)をまじえない=他力の信心 「三心すでに疑蓋雑はることなし、ゆゑに真実の一心なり」

(『信巻』 p245)

どうやったらその蓋が取れるのか??が問題 求道したら??聞いたら??称えたら??